

科目：国語（C）

●問題冊子 3 ページ：（一） 3 行目

（誤） よろしい。では今村さん・・・

（正） よろしい。では今岩村さん・・・

以上



<2025 R07190015 (国語 (C))>

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～9ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははつきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

5. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
8. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
9. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

(一)

次の文章は石坂洋次郎『若い人』（一九三七年刊）の一節である。ある女学校で教員を務めている間崎が、「乃木大将の殉死」という教材を教えている授業に、文部省から視学官が訪れる場面である。これを読んであとの問いに答えよ。

始業のベルが鳴った。間崎はぬるい番茶をゴクツと口の渴きを呑み下ろして、いつものやうに二三本のチョークを裸のまま握つて二階に上つて行つた。校舎の中は例になくひつそりとして、スリッパの音が廊下の果まで響いた。生徒達は両手を膝の上に揃へて温順しく控へて居た。あけ放した窓から微風が吹き通つて、髪や肌の香が薄荷のやうに匂つた。教壇に立つた。生徒達の机がいつもより綺麗に光つてみえた。

「みんな髪を撫でつけて来たらうね」

間崎は出席簿を脇息にして一わたり室内を見まわした。クスクス忍び笑が起つた。

「皆さん後を向きませう、ワン、ツウ、スリー」

茶目な畑山サツと云ふ生徒の音頭で、プツと吹き出しながら全生徒が後向きになつた。不意の悪戯で間崎はびっくりした。それが、みんな申し合せて髪をお下げに結んで来たことを示すための団体行動であることがわかつた時、¹間崎は先刻来の憂悶を忘れて、胸をそらせて高らかに笑ひ出した。

「間もなく御客さんが見えますが此の元気でやりませう。慄へたり吃つたりしないやうに……」

好調子で授業が始まつた。前課の教材の残りを急いで済ませ、「乃木大将の殉死」の読み方にかかつた頃、階段をドヤドヤ上る足音が聞え、ミス・ケートを先頭に視学官の一行が教室の中に入つて来た。級長の長尾が号令をかけた。

「いや、そのまま。失礼」

視学官はツカツカと生徒の列の間を通つて後の壁際に行き、間崎と真向に面して立つた。ほかの參觀者は廊下側の窓際に並び、はみ出て廊下に立つた人も三四人あつた。その中に橋本先生の顔もチラと見えた。

間崎は右手に教科書を持ち、左手を教卓にのせ、ジーンと硬化し始めた室内の空氣に無言の抵抗を試みた。自分が上つたらそれつきりだ！指名された生徒達は、間崎の予想を裏切つて、いづれも落ちついて明快に朗読した。

「そこまで。次ぎ、おしまひまで……」

生徒の顔を眺めまわしてゆくうち、ふと江波恵子が目に触れた。

「江波さん！」

「は？」

江波は返事をしてつましやかに起立した。間崎はひとりでに顔がほてつて来た。仕方がなくて、唇を噛み、髪を二三回撫であげた。江波はふくらみのある声に、大人びた抑揚を付して流暢に朗読を続けていつたが、「う²つし世を神去りましし大君のみ跡慕ひて我はゆくなり」と云ふ大将の辞世の和歌の所へくると、急に朗吟するやうな調子で二回繰り返して読み、更に先の方へ読み進んでいつた。それは初めてきく人には平素から和歌を復唱する習慣になつて居るかのやうに思はしめたほど自然に行はれたが、間崎は針で突き刺されたやうなショックを受けた。不良奴、きつと何か仕出かすにちがひない、といふ突然な不安が、頭の中に組み立てられて居た授業の計画を煙のやうに朦朧と混乱させてしまつた。

読み終つた。

「こちら向いて。——今、私達が読んだ文章の中で論じて居た主眼点はどんなことですか。……考へた通りに発表してごらんさい」

三人、四人、五人、七八人の生徒が手を挙げた。

「岩村さん」

「はい。第一頁に書いてあることが主眼点だと思ひます。乃木大将が自殺をされたのは、名誉心や虚栄心のた

めではなく、もつと純粋な動機からであつたと云ふことです。二頁から以下は、それを証拠だてるやうな大将の生前の事蹟について記してあります」

「よろしい。では今村さんの云つた純粋な動機と云ふのは、ハッキリ云へばどんなことですか」

「明治十年の役の際に軍旗を敵に奪はれた責任観念であります」

「さう。遺言書の第一条に明らかにその事を述べてありますね。ほかに自殺の動機となつたものがありませんか。もつと直接なこと……」

手が上らなかつた。やうやく一人！

「江波さん」

「はい。明治天皇が崩御あそばされたので寂しかつたのです」

「どこに書いてあります？」

「文章全体を読めばそんな感じがします。それから先刻私がよんだ所にあつた辞世の和歌にその心持ちを述べてあつたと思ひます」

「よろしい。それが大切な所です。大将が自殺をされたほんとうの原因は、軍旗を失つたことよりも明治大帝に崩御された例へやうの無い寂びしい心持、それであつたのですが、而し遺言状の中にそんな事を記すのは恐れ多いことですから、軍旗のことだけ述べて、ほんとうの心持は歌の中に表したのだと思ひます。例へて云ふのはどうかと思ひますが、母親に死なれた子供の心持、親しい尊敬する友達に死なれた人のガツカリした心持、それは一片の私心も無い純粋な感情で、自分の行為が世間からどんな風に批判されるか、どんな影響を及ぼすかなどと云ふことは考へる余裕もない。

a
です。

さて、殉死と云ふ行為はいけない事として昔から禁じられてありますが、何故でせう。忠実な召使が自分の敬愛する主人の後を追つて死ぬると云ふことはそれほど咎むべき行ではないかと思ひますが……何故でせう……」

間崎は、生徒と自分とが漸く一つの精神的な仕事に向つて協力し始めたことを感じた。ゆつくり、急がずに……。

「山本さん」

「はい、死にたく無い人も義理に迫られて死ななければならぬからです」

「富田さんは？」

「はい。主人の後を追つて死ぬよりは生き残つて主人の家のために働いた方がお互のためになるからです」

「ふむ。両方とも正しい考へ方だと思ひます。山本さんのは理論的な立場から、富田さんのは実際の立場から、殉死を否定して居ります。乃木大将の場合のやうに、自分の御主人になくなられてどうしても死なずに居られないやうな心持になる人は、何万人、何十万人中に一人あるか無しだと思ひます。その滅多にない、たつた一人の人の行為を一般の人に強制すると云ふことは、死ぬる人、死なれる人、どちらの側から考へてもよくないことだと思ひます。況や、富田さんが云つたやうなためになるならないと云ふ功利的な立場から論ずれば、死んでしまへばそれで済みひです。こんな訳で一般に殉死といふことは禁じられて居りますが、而し乃木大将の場合のやうにその心持に少しの無理もない殉死は、これを一般的な形式道徳で批判することが出来ないのです。殉死は悪い、乃木大将は殉死した、故に乃木大将の行為はいけない、もう一つ——、嘘をつくのは悪い、母親が病氣の子供の薬をのませるために砂糖水だと嘘をついた、故に母親の行は悪い——皆さんはこの三段論法のどこに誤りがあるかわかりますか。確かに誤つてることだけはわかりますね……」

(注) 乃木大将……乃木希典(一八四九—一九二二)。陸軍軍人。

視学官……各地で学校の視察、監督を行つた文部省の官職。

問一 傍線部1「間崎は先刻来の憂悶を忘れて、胸をそらせて高らかに笑ひ出した」とあるが、生徒たちと間崎との間にはどのような関係を読み取ることができるか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 多くの生徒たちが教員の間崎のことを親身に考えており、視察授業で間崎が何か失敗はしないかと心配し、思いやるような関係が生まれている。

ロ 生徒たちと間崎との間には気のおけない友達のような関係が生まれており、視察授業も一緒に楽しもうとする雰囲気が生まれている。

ハ 間崎の優しい接し方に慣れ親しんだ生徒たちは、視察授業で間崎をからかってみたいと思うような関係が形作られている。

ニ 多くの生徒たちが教員の間崎に親しい気持ちを抱き、視察授業への対応に積極的に協力しようとするような関係が作り上げられている。

ホ 生徒たちは間崎をひたむきに尊敬しており、どの生徒も間崎に評価されようと懸命になるような関係が形作られている。

問二 傍線部2「うつし世を神去りましし大君のみ跡慕ひて我はゆくなり」の現代語訳として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 今の世界から消えてしまわれた天皇は、私のこの世への執着をすべて取り去ってゆくだろう

ロ 変化の激しい世界から消えてしまわれた天皇の事蹟を、私は丹念にたどってゆこう

ハ 現代のこの世界は神など存在できないから、神が生きていけるような世界へと私は去ってゆく

ニ 私の人生から天皇のお姿を失ってしまった今、自分が生きていく頼りとするものも私から消えてゆく

ホ この世からお亡くなりになった天皇のあとを追って、私はこの世から去ってゆく

問三

a

 に入る語句として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ（選択肢は現代仮名遣いに改めた）。

イ 落ち着いた、静かな気持ち

ロ あわただしい、切迫した気持ち

ハ 終わりのない、暗い気持ち

ニ 変わることのない、おごそかな気持ち

ホ さし迫った、切ない気持ち

問四 本文は間崎から生徒への問いかけで終わっている。この後、間崎による乃木大将の殉死についての説明が続くこととなる。間崎はどのように説明したと考えられるか。二〇〇字以内でまとめ、記述解答用紙に記せ（句読点も一字に数える）。

(二) 次の文章は『沙石集』所収の説話である。これを読んで、あとの問いに答えよ。

後嵯峨法皇の、御熊野詣^Aありける時、伊勢の国の夫^ふの中に、本宮の音無河と云ふ所に、梅の花の盛りなりけるを見て、よみける。

音なしに咲き始めける梅の花
夫が歌には、いみじき秀歌なるべし。
B

この事、御下向の時、道にて自然に聞こしめして、北面の下臈に仰せて召されにけり。北面の者、馬にてあちこち打ちめぐりて、「本宮にて、歌よみたりける夫は、いづれぞ」と問ふに、「これこそ、件^{くだん}の夫にて候へ」と、そばにて人申しければ、「仰せなり。参るべし」と云ひける、返事、

花ならば折りてぞ人のとふべきになりさがりたるみこそつられ

さて、返事にも及ばで、おめおめと馬より下りて、具して参りぬ。事の子細聞こしめされて、御感ありて、「何事にも所望申せ」と仰せ下さる。「云ひ甲斐なき身にて候へば、何事の所望か候ふべき」と、申し上げけれども、「など分に随ふ所望なかるべき」と仰せければ、「母にて候ふ者を、養ふほどの御恩こそ、所望に候へ」と申しければ、百姓なりけるを、かの所帯の公事、一向御免ありて、永代を限りて、違乱あるまじき由の御下文たまはりて、下りけるとぞ。わりなき勸賞にこそ。百姓が子なりけれども、児だちにて、和歌の道心得たりけるとぞ、人申し侍りし。

(注) 夫：労役のために集められた人足 本宮：熊野坐神社。熊野本宮大社ともいう。

北面：院の御所を警護する武士 公事：税などの貢納

勸賞：ほうび

問五 傍線部Aの「熊野詣」について、次の文章の空欄にあてはまることばとして最も適切なものを、あとのa

～eの選択肢から選び、それぞれ解答欄にマークせよ。

熊野は人々の信仰を集めた聖地であり、たびたび天皇が参詣した。花山天皇や後白河天皇の熊野詣は有名である。花山天皇は歌人としても知られ、

aの編纂には、藤原公任も関わり、公任は別

の才の逸話からわかる。花山天皇、藤原公任からおおよそ百五十年後を生きた後白河天皇は、和歌よりも

dに熱中し、eを編纂し、新しい文化を推進した。

a	イ	古今和歌集	□	後撰和歌集	ハ	拾遺和歌集	ニ	後拾遺和歌集	ホ	金葉和歌集
b	イ	金槐和歌集	□	和漢朗詠集	ハ	新撰万葉集	ニ	文選	ホ	古今和歌六帖
c	イ	管絃	□	書	ハ	蹴鞠	ニ	陰陽道	ホ	有職故実
d	イ	狂言	□	催馬楽	ハ	連歌	ニ	田楽	ホ	今様
e	イ	新撰菟玖波集	□	文机談	ハ	風姿花伝書	ニ	梁塵秘抄	ホ	水無瀬三吟百韻

問六

空欄

B

に入るのに最も適切な下の句は何か。初句の「音なしに」との関係を考えて、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 香をなつかしみうぐひすぞ鳴く

ロ みよの仏のめぐみなりけり

ハ にはざりせばいかで知らまし

ニ 花ぞ昔の香にほひける

ホ にはふは花のさかりなりけり

問七

傍線部 C「み」は二つの意味が掛けられていると考えられる。その二つの意味がわかるように漢字を充てて、その漢字をそれぞれ記述解答用紙に記せ。なお、どちらの漢字を先に書いても構わない。

問八

傍線部 D「おめおめと馬より下りて」とあるが、①「馬より下り」た理由は、何か、また②「おめおめと」という表現には、どのような筆者の意図が読み取れるか、それぞれ五〇字以内で記述解答用紙に記せ（句読点も一字に数える）。

問九

傍線部 E「下りける」とあるが、どこへ下ったのか。その下った先を問題文から抜き出して記述解答用紙に記せ。

(三)

次の文章は、西郷隆盛が生前、為政者としての心得について、彼の信奉者に対して語ったことを記録した『南洲翁遺訓』の中の一節である。これを読んで、あとの問いに答えよ。設問の都合上、返り点・送り仮名を省いた箇所がある。

A 道ハ天地自然ノ道ナルユエ、講学ノ道ハ敬天愛人ヲ目的トシ、身ヲ修スルニ克己ヲ以テ終始セヨ。¹己レニ克ツノ極功ハ「母^シ意^シ母^シ必^シ母^シ固^シ母^シ我^シ」ト云ヘリ。総ジテ人ハ己レニ克ツヲ以テ成リ、自ラ愛スルヲ以テ敗ルルゾ。能ク古今ノ人物ヲ見ヨ。事業ヲ創起スル人其ノ事大抵十二七八迄ハ能ク成シ得レドモ、残り二ツヲ終リ迄成シ得ル人ノ希^まレナルハ、始ハ能ク己レヲ慎ミ事ヲモ敬スル故、功モ立チ名モ顯^あハルナリ。功立チ名顯ハルルニ随ヒ、イツシカ自ラ愛スル心起リ、恐懼^{きょうく}戒慎^{かいしん}ノ意弛^{ゆる}ミ、驕矜^{けうきやう}ノ氣漸ク長ジ、其ノ成シ得タル事業ヲ負^たミ、苟モ我が事ヲ仕遂^{しとげ}ントテ、マヅキ仕事ニ陥イリ、終ニ敗ルルモノニテ、皆ナ自ラ招ク也。故ニ己レニ克チテ、睹^みズ聞カザル所ニ戒慎スルモノ也。

(注) 母意母必母固母我：『論語』子罕篇の孔子の言葉。

B 或ル時

幾歴辛酸志始堅 幾タビカ辛酸ヲ歴テ志始メテ堅シ
丈夫玉碎愧軫全 丈夫玉碎スルトモ軫全ヲ愧ヅ
一家遺事人知否 一家ノ遺事人知ルヤ否ヤ
不為児孫買美田³ 児孫ノ為ニ美田ヲ買ハズ

トノ ア ヲ示サレテ、若シ此ノ言ニ違^へヒナバ、西郷ハ言行反シタルトテ見限ラレヨト申サレケル。

(注) 軫全：何もなすことなく、いたすらに生きながらえること。

C 学ニ志ス者、規模ヲ宏大ニセズンバアル可カラズ。去リトテ唯コノミ偏倚^{へんい}スレバ、或ハ身ヲ修スルニ疎ニ成リ行クユエ、終始己レニ克チテ身ヲ修スル也。規模ヲ宏大ニシテ己レニ克チ、男子ハ人ヲ容^いレ、人ニ容^{おろそ}ラレテハ濟^すマヌモノト思ヘヨト、古語ヲ書テ授ケラル。

恢宏^{スル}其志^ノ氣^ヲ者、人^ノ之^ノ患^ハ、莫⁴大乎自私自吝、安於卑俗、而不以
古人自期。

古人ヲ期スルノ意ヲ請問セシニ、堯舜ヲ以テ手本トシ、孔夫子ヲ教師トセヨトゾ。⁵

(注) 恢宏其志氣者：不以古人自期：清・魏禧『魏叔子文集外篇』の言葉。

問十 A文の傍線部1「己^{おの}レニ克^かツノ極功ハ「母^シ」意 母^シ」必^シ 母^シ」固^シ 母^シ」我^シ」ト云ヘリ」の「極功」とは、極めて大きい功績・効能という意味である。また、西郷隆盛が引用したのは、『論語』の中の孔子の言葉で、後世「四母^ふ（四つのあつてはならない弊害）」と称される一句である。傍線部1の説明として誤^{まちが}っているものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 克己心が備わることの功績の一つは、根拠のない勝手な思い込みを持たなくなることである。
ロ 克己心が備わることの功績の一つは、私が私が、というような自己中心的な言動をとらなくなることである。

ハ 克己心が備わることの功績の一つは、意のままに他人を使役したり支配したりすることがなくなることである。

ニ 克己心が備わることの功績の一つは、己の考えに固執することなく、臨機応変に物事に対処できるようになることである。

ホ 克己心が備わることの功績の一つは、必ずこうでなければならない、というような柔軟性に欠ける態度がなくなることである。

問十一 A文の傍線部2「自ラ愛スル心」とは、どのような態度を言うか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ まず初めに自分から人を愛しようとする態度

ロ 己をまず肯定し自分が一番大事と考える態度

ハ 常に他者と比べて自分の利益を重んじる態度

ニ 自然に芽生えた感情を何より大切にすることの態度

ホ 他人を顧みず一途に自分の決断を信じる態度

問十二 B文に引用される漢詩の傍線部3「児孫ノ為ニ 美田ヲ買ハズ」の意味として、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 公私の別をはっきりとし、己の子孫のためにせめて必要最低限の財産だけは遺すことにしよう。

ロ 私は国のため全てを捧げたので、たとえわずかな財産であれ、すべて国に寄付するつもりである。

ハ 必要最低限の財産は遺すことができたとしても、肥沃な田畑を買えるほどの財産はとうてい遺せない。

ニ ただひたすら一家の繁栄ばかりを考え、条件の良い田畑を己の子孫のために買い与えるようなまねはしない。

ホ 将来を担う子孫の世代のため、良田に限らず多くの土地を買い、一人でも多くの民にそれを与えることにしよう。

問十三 B文の空欄 ア には、引用された漢詩の詩型が入る。その詩型を漢字四字で記述解答用紙に楷書で記しなさい。

問十四 C文の傍線部4「莫大乎自私自吝、安於卑俗、而不以古人自期」は、「(人のわざわいの中で) 自分勝手に我が身だけを可愛がり、世俗にどっぷり浸かって、古の聖人のようになることを自ら期待しない以上に大きなわざわいはない」という意味である。この意味になるように、記述解答用紙の白文に返り点を付けよ。ただし、送り仮名は記さないこと。

問十五 C文の傍線部5「孔夫子」とは孔子のことである。孔子もしくは儒教の掲げた徳目や主張を次の中から二つを選び、解答欄にマークせよ。

イ	万物斉同	ロ	仁義礼智	ハ	信賞必罰	ニ	無為自然
ホ	兼愛交利	ヘ	修身齊家				

〔以下 余白〕

国語 (C)
(記述解答用紙)

注 意

1. 受験番号（算用数字）・氏名は指示に従ってただちに所定欄に記入し、それ以外に記入してはならない。
2. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
3. 解答はH Bの黒鉛筆またはH Bのシャープペンシルで書くこと。
4. 試験終了時にはこの解答用紙を裏返して机の上に置き、指示を待つこと。

〈2025 R 07190015 (国語(C))〉

受験番号	万	千	百	十	一
氏名					

(注意) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

〈2025 R 07190015 (国語(C))〉

受験番号	万	千	百	十	一
氏名					

(注意) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。



(三)

問十三

問十四

莫大乎自私自吝、安於卑俗、而不以古人自期

問九

②

50

問八①

50

(二)

問七

(一)

問四

200

解答欄

採点欄

採点欄